

## ●利用者8● 80代 女性【認知症でがん末期の独居者支援】

✓認知症でがん末期の独居の人の在宅生活を「通い」「泊まり」「訪問」を組み合わせ  
せて支援

✓在宅療養支援診療所と連携して支援体制を整備

### 1. 利用者の基本情報

世帯構成	独居				
介護力	主たる介護者は不在。介護できる人はいない。				
要介護度	要介護5				
障害高齢者の日常生活自立度	C2	認知症高齢者の日常生活自立度	III b		
ADL	移動	食事	排泄	入浴	着替え
	全介助	全介助	全介助	全介助	全介助
主な傷病	・乳がん。骨転移。皮膚転移				
必要な医療処置	・看取り期のケア ・創傷処置 ・服薬管理 ・疼痛の看護 ・浣腸 ・摘便 ・リンパマッサージ・皮膚転移部のケア				
ターミナル期	ターミナル期	病状の安定性・悪化の可能性	不安定・悪化の可能性あり		
特記事項	両乳房切除後。全身にリンパ浮腫あり。 認知症の進行もあり、妄想やつじつまの合わないことを言う。				

### 2. 利用開始の経緯

<がん末期で認知症も進行。徘徊を機に利用開始>

- ・退院後、当法人の訪問看護、他法人の訪問介護、居宅介護支援を利用していたが、訪問介護事業所が閉鎖し、居宅介護支援も当法人に任せたいと言われ、2012年5月より訪問看護、2014年4月より訪問介護、2015年1月より居宅介護支援が関わるようになった。
- ・全身倦怠感、食欲低下、胸部痛、リンパ浮腫に伴う歩行障害、便秘など様々な症状があった
- ・がん末期で病状が進行しているのに加え、認知症も進行していた。金銭管理の支援を行うため、日常生活自立支援事業につなぎ、民生委員にも連絡した。
- ・入院したくないとのことで、当事業所で多職種の合同カンファレンスを3回程度開催した。
- ・認知症で対応方法が難しく、看護小規模多機能を実費で試験的に2回ほど利用した。本人の希望より看護小規模多機能の利用とはならなかったが、その後、徘徊して家に戻ることができなくなり、警察に保護されることがあった。それを機に、看護小規模多機能型居宅介護で泊まりを定期的に2泊ずつ利用することとなった。

### 3. 利用開始直後のサービス提供状況

- ・警察に保護された後、午前中は自宅に帰り、その日の夕方に看護小規模多機能型居宅介護に戻って泊まりを行った。認知症が進行し、日中の見守りが必要となり、自宅へ戻った際には、看護小規模多機能型居宅介護からの訪問に加え、介護保険外の訪問介護も組み合わせ、一人にしないようにした。

#### ※利用開始から最初の2週間のサービス提供状況

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目	6 日目	7 日目	8 日目	9 日目	10 日目	11 日目	12 日目	13 日目	14 日目
通い	○	○	○		○		○	○		○		○		○
泊まり	●	●				●	●						●	●
訪問(介護)	□ 1回		□ 1回		□ 2回	□ 1回		□ 2回		□ 1回		□ 1回	□ 1回	
訪問看護 (同事業所: 医療保険)		★ 1回				★ 1回	★ 3回	★ 2回	★ 1回			★ 1回		★ 1回

## 4. その後のサービス提供状況

### <医療機関と連携しながら看取り体制の整備>

- ・がんが進行する中、看護小規模多機能型居宅介護でカンファレンスを行い、具体的な症状とケア内容について検討が行われ、入院も選択肢としてあり得ると考えられたが、主治医を病院から在宅支援診療所に変更し、往診を受けられるようにして、看取りを行う体制を整えた。

#### ※その後の2週間のサービス提供状況

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目	6 日目	7 日目	8 日目	9 日目	10 日目	11 日目	12 日目	13 日目	14 日目
通い		○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	
泊まり	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
訪問 (介護)	□ 2回					□ 2回					□ 2回			□ 2回
訪問看護 (同事業所: 医療保険)	★ 1回	★ 1回	★ 1回	★ 2回	★ 3回	★ 1回		★ 1回	★ 1回	★ 1回	★ 2回	★ 2回	★ 3回	

### <事業所で看取りを行う>

- ・事業所で自然な形の看取りができれば、それが一番いいだろうと、車いすをリクライニングに替えてぎりぎりまでロビーに出たり、入浴したり、食事を少しずつ食べたりしていた。本当に楽に自然な感じで亡くなったのではないかと思う。
- ・認知症が進行する前に、どのような看取りをしてほしいのかを本人に聞いていたので、亡くなった際には、本人から聞いていたお寺や互助会に連絡した。葬儀には看護小規模多機能の職員をはじめ、法人の職員が多数参加した。

## ※看取り時のサービス提供状況

	1 日 目	2 日 目	3 日 目
通い	○	○	○
泊まり	●	●	●

## ○サービス利用の効果

- ・本人の心身の状態に合わせて臨機応変にサービスを組み合わせ、自宅で安心して過ごすことができた。また、徘徊後には連日、泊まりを利用することで、その後、事故なく安全に過ごした。
- ・馴染みの職員の支援により可能な範囲で催しにも参加することができ、穏やかな生活を送ることができた。
- ・ターミナル期の支援として、死後の連絡先や葬儀などについて、本人に十分に確認したことで、望みを叶えることができた。また、主治医を往診が可能な診療所の医師に変更したことで、病状変化時の対応の相談や死亡確認も事業所に往診で来てもらうことで対応可能となった。